

令和3年度

昭島市立共成小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	○ 助け合う子 ○ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子	ビザン	【目指す学校像】	①共に成し遂げる過程で、「ありがとう」が生まれる学校 ②児童が自他を尊重し、「やさしさ」を感じる学校③児童が課題を解決する過程で、「学びがい」を感じる学校 ④児童が心と体の健康に関心をもち、「元氣」を感じる学校
			【目指す児童・生徒像】	①粘り強く目標に向かい、「ありがとう」を付け合う児童 ②誰かのために自分ができることを考え実行する児童③思いや考えを共有し、学び合い、認め合う児童 ④自他の体を大切にし、一緒に運動を楽しみ、互いに支え合う児童
			【目指す教師像】	①多様な立場の人と目標を共有して協働する教師 ②児童の心情や意図の理解に努め、価値付け教師③児童にとって魅力ある授業づくりに努め、変化を見出す教師 ④児童の心と体が元氣になるよう関わりをもつ教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が自ら考え、活躍することができ、「分かる」「できる」を言葉で表すことができるよう、学習過程の改善を図る。	児童が何を学ぶのか、何が分かったかを理解し、主体的に学習に取り組む態度を育む。	1単元、1単位時間において「めあて」「見通し」「振り返り」のある授業を展開する。	4 3 2 1	90%以上の教員が振り返りの指導に取り組んだ 80%～90%未満の教員が振り返りの指導に取り組んだ 70%～80%未満の教員が振り返りの指導に取り組んだ 70%未満の教員が振り返りの指導に取り組んだ	4 3 2 1	90%以上の児童が振り返りをしたと回答 80%～90%未満の児童が振り返りをしたと回答 70%～80%未満の児童が振り返りをしたと回答 70%未満の児童が振り返りをしたと回答	3 3 3 3	授業において教員が高い意識をもって充実した1時間の授業の展開になるように取り組んでいる。	A	児童が何を学ぶのか、理解し主体的に学習に取り組めるように「振り返り」の内容充実を更に進める。
		考えを言語化・可視化して深めることができる授業をつくる。(研究指定校としての取組)	思考ツール等、考えを可視化することで児童が考えを深め合う授業を展開する。	4 3 2 1	90%以上の教員が言語化・可視化に取り組んだ 80%～90%未満の教員が言語化・可視化に取り組んだ 70%～80%未満の教員が言語化・可視化に取り組んだ 70%未満の教員が言語化・可視化に取り組んだ	4 3 2 1	90%以上の児童がよりよく考えたと回答 80%～90%未満の児童がよりよく考えたと回答 70%～80%未満の児童がよりよく考えたと回答 70%未満の児童がよりよく考えたと回答	3 3 3 3	児童の考えを可視化することが考えを深め合う学習につながっている。	A	児童に思考ツールの使い方を習熟させ、考えを深めるためにより友好的に活用できるようにする。
		すべての児童が活躍できる、「分かった」「できた」喜びを実感できる授業をつくる。	スモールステップで児童の変容を見取り、「できた」を実感できる評価を工夫する。	4 3 2 1	80%以上の教員がスモールステップで評価の工夫に取り組んだ 80%～90%未満の教員がスモールステップで評価の工夫に取り組んだ 70%～80%未満の教員がスモールステップで評価の工夫に取り組んだ 70%未満の教員がスモールステップで評価の工夫に取り組んだ	4 3 2 1	80%以上の児童が毎日「分かった」「できた」と思えた回答 80%～90%未満の児童が毎日「分かった」「できた」と思えた回答 70%～80%未満の児童が毎日「分かった」「できた」と思えた回答 70%未満の児童が毎日「分かった」「できた」と思えた回答	3 3 3 3	学習をスモールステップ化することにより児童が「分かった、できた」と感じることができた。	A	スモールステップを学習内容や児童の実態に合わせて最適化し、より児童が活躍できる授業をつくる。
豊かな心	児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる学校づくりを推進する。	自他を大切にする気持ちや言葉で伝え合う場面を作り、互いに尊重し合う態度を育む。	児童が「あいさつ」「返事」「アイコンタクト」をより意識するよう取り組む。	4 3 2 1	90%以上の教員が「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ 80%～90%未満の教員が「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ 70%～80%未満の教員が「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ 70%未満の教員が「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ	4 3 2 1	90%以上の児童が「あいさつ・返事」ができたと回答 80%～90%未満の児童が「あいさつ・返事」ができたと回答 70%～80%未満の児童が「あいさつ・返事」ができたと回答 70%未満の児童が「あいさつ・返事」ができたと回答	3 3 3 3	教員が「あいさつ・返事」の大切さを理解し、しっかりと指導に取り組む、効果があった。	A	児童同士の言葉遣いに関して、継続的に指導をし、自他を大切にすることを促す。
		「いじめ問題」はいつでも誰にも発生し得ると認識し、未然防止と早期対応に努める。	「やさしい言葉」を増やす活動に児童が主体的に取り組む指導を継続する。	4 3 2 1	90%以上の教員が継続的な活動の指導に取り組んだ 80%～90%未満の教員が継続的な活動の指導に取り組んだ 70%～80%未満の教員が継続的な活動の指導に取り組んだ 70%未満の教員が継続的な活動の指導に取り組んだ	4 3 2 1	90%以上の児童が「やさしい言葉」を使うよう心がけた回答 80%～90%未満の児童が「やさしい言葉」を使うよう心がけた回答 70%～80%未満の児童が「やさしい言葉」を使うよう心がけた回答 70%未満の児童が「やさしい言葉」を使うよう心がけた回答	3 3 3 3	朝の会や学級活動など様々な場面で「やさしい言葉」について継続的に指導できている。	A	ふれ合い月間における学校全体での相手への温かい言葉かけなどの取組を継続していく。
		小さな問題にも気付けるよう児童理解に努め、組織的・継続的に観察・指導する。	児童のサインをキャッチし、情報共有の日常化を図り、組織的対応を行う。	4 3 2 1	90%以上の教員が日常的に情報共有を行った 80%～90%未満の教員が日常的に情報共有を行った 70%～80%未満の教員が日常的に情報共有を行った 70%未満の教員が日常的に情報共有を行った	4 3 2 1	90%以上の児童が学校に相談できたと回答 80%～90%未満の児童が学校に相談できたと回答 70%～80%未満の児童が学校に相談できたと回答 70%未満の児童が学校に相談できたと回答	2 2 2 2	生活指導案件については即日対応し、学年間や全校で情報を共有しながら対応している。	B	SCやSSWを積極的に活用し、児童が相談できる大人を増やし、いつでも相談できる学校を目指す。
健やかな体	児童が自分の心と体の健康に関心をもち、健康の保持・増進に関する意識を高め、よりよい生活習慣や食事について考え実践する態度を育む。	児童自身が体力向上の成果を実感できるよう、組織的・継続的に指導する。	体力向上週間や授業で関心を高め、元氣アップガイドブックを継続的に活用する。	4 3 2 1	80%以上の教員が元氣アップガイドブックを継続的に活用した 80%～90%未満の教員が元氣アップガイドブックを継続的に活用した 70%～80%未満の教員が元氣アップガイドブックを継続的に活用した 70%未満の教員が元氣アップガイドブックを継続的に活用した	4 3 2 1	90%以上の児童が運動は楽しいと回答 80%～90%未満の児童が運動は楽しいと回答 70%～80%未満の児童が運動は楽しいと回答 70%未満の児童が運動は楽しいと回答	4 4 3 3	ブレイリーダーと連携し、元氣アップガイドブックを活用した取組を行うことで運動が楽しいと感じる児童が増えている。	A	元氣アップガイドブックを授業や休み時間、放課後など様々な場面で日常的に活用していく。
		健康の保持・増進についての理解を深め、望ましい生活習慣に向け実践の態度を育む。	「グッドモーニング60分」に家庭と連携して取り組み、児童自身による習慣化を図る。	4 3 2 1	90%以上の教員が家庭と連携して習慣化を図った 80%～90%未満の教員が家庭と連携して習慣化を図った 70%～80%未満の教員が家庭と連携して習慣化を図った 70%未満の教員が家庭と連携して習慣化を図った	4 3 2 1	80%以上の児童、保護者が学習・生活習慣が改善したと回答 70%～80%未満の児童、保護者が学習・生活習慣が改善したと回答 60%～70%未満の児童、保護者が学習・生活習慣が改善したと回答 60%未満の児童、保護者が学習・生活習慣が改善したと回答	3 3 3 3	グッドモーニング60分の取組を通じて、生活習慣の実態を把握し、指導に役立てることができた。	B	保健指導や家庭学習週間などの取組の連携を密にしてより実効性のあるものにする。
		自分の心の健康づくりに関心をもち、他者の心も大切にする意識や態度を育む。	SST等心のもち方や他者との関わり方について学習の継続を図る。	4 3 2 1	90%以上の教員が継続的に心の指導に取り組んだ 80%～90%未満の教員が継続的に心の指導に取り組んだ 70%～80%未満の教員が継続的に心の指導に取り組んだ 70%未満の教員が継続的に心の指導に取り組んだ	4 3 2 1	90%以上の児童が他者のためになる言動をしたと回答 80%～90%未満の児童が他者のためになる言動をしたと回答 70%～80%未満の児童が他者のためになる言動をしたと回答 70%未満の児童が他者のためになる言動をしたと回答	3 3 2 2	教員が心の指導の取り組みを通じて、児童が他者のためになる言動をする気持が高まった。	B	道徳や特別活動の取組を充実させ、児童の自己肯定感を高め自分も他者も大切にする心構えを高める。
輝く未来	目標をもって粘り強く取り組む態度を育み、人とのかかわりを大切にした豊かな人間性やコミュニケーション能力を高める教育活動を推進する。	集団の中で、自分のできることを判断し、行動する力を育む。	リーダー・フォロワーシップを理解し、自己決定のうえ実践できるよう指導する。	4 3 2 1	90%以上の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ 80%～90%未満の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ 70%～80%未満の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ 70%未満の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ	4 3 2 1	90%以上の児童が自分で考えて行動できたと回答 80%～90%未満の児童が自分で考えて行動できたと回答 70%～80%未満の児童が自分で考えて行動できたと回答 70%未満の児童が自分で考えて行動できたと回答	3 3 3 3	縦割り班の「なかよしタイム」の活動により、集団の中で考えて行動できる力が高まった。	A	2学年交流だったなかよしタイムを全学年へ広げ、リーダーシップ・フォロワーシップの力を高める。
		児童同士が協働し認め合う場を意図的に設定し、自己肯定感・自己有用感を育む。	「ありがとう」をキーワードに、児童が相互に承認する活動に取り組む。	4 3 2 1	90%以上の教員が認め合う活動に取り組んだ 80%～90%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ 70%～80%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ 70%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ	4 3 2 1	80%以上の児童が自分のことを好きと回答 70%～80%未満の児童が自分のことを好きと回答 60%～70%未満の児童が自分のことを好きと回答 60%未満の児童が自分のことを好きと回答	4 3 2 2	互いを認め合う活動を教員がしっかりと行っている。自分のことを好きと回答している児童も多い。	B	作品を見合ったり教え合ったりする活動を取り入れ、互いを認め合う機会を増やしていく。
		家庭・地域・中学校との連携を通して、キャリア教育を推進する。	「キャリアアルバム」を活用してキャリア教育の年間計画に基づき、計画的に指導する。	4 3 2 1	90%以上の教員が認め合う活動に取り組んだ 80%～90%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ 70%～80%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ 70%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ	4 3 2 1	90%以上の児童が自分のよきや成長について考える回答 80%～90%未満の児童が自分のよきや成長について考える回答 70%～80%未満の児童が自分のよきや成長について考える回答 70%未満の児童が自分のよきや成長について考える回答	3 3 2 2	キャリアアルバムを通じて家庭と学校が連携し、計画的にキャリア教育を推進することができた。	B	キャリアアルバムを通じて児童が自己を見つめることができるように、計画的な指導を続けていく。